

公益社団法人 日本水産学会
令和4年度第4回理事会議事録

1 開催された日時 令和4年7月2日(土) 13時00分～15時24分

2 開催された場所 日本水産学会事務局(東京都港区港南4-5-7)

3 理事総数及び定足数

総数 17名、定足数 9名

4 出席理事総数 17名

(Web会議システムによる出席)

東海 正、潮 秀樹、廣野育生、佐野元彦、落合芳博
小島隆人、中田 薫、河村知彦、山下 洋、大嶋雄治
栗田 豊、八木信行、奥村卓二、澤田好史、有瀧真人
吉田照豊

5 出席監事

(Web会議システムによる出席)

佐藤秀一、良永知義、野澤知世

6 出席幹事

(Web会議システムによる出席)

横田賢史、神尾道也、小糸智子、壁谷尚樹、加藤豪司、團 重樹

7 議案

決議事項

第1号議案 「会費免除」の件

第2号議案 「令和4年度支部交付金の配分額」の件

第3号議案 「学会賞選考委員会委員の交代」の件

第4号議案 「水産技術誌監修委員会幹事の交代」の件

第5号議案 「e-水産学シリーズ出版契約」の件

第6号議案 「令和4年度秋季大会における発表を行わない学部学生の大会参加費無料化の試み」の件

第7号議案 「水産学若手の会主催令和4年度春季大会ミニシンポジウム」の件

第8号議案 「水産学若手の会公式Twitterアカウント運用ガイドライン」の件

第9号議案 「水産学若手の会公式Twitterアカウント運用ポリシー」の件

第10号議案 「令和6年度春季及び秋季大会の担当支部」の件

第11号議案 「入会承認」の件

報告事項

① 令和4年度第3回理事会以降の職務執行状況

② その他確認事項

(1) 令和4年度決算処理日程

(2) 次回の理事会について

8 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

東海会長が定足数の充足及び Web 会議用装置からなる Web 会議システムにより、出席者の音声、映像が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。続いて本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、東海会長が議長となり、本会議の成立及び Web 会議システムを用いて開催する旨宣言し、議案の審議に移った。

(決議事項)

第 1 号議案 「会費免除」の件

廣野総務担当理事から原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 2 号議案 「令和 4 年度支部交付金の配分額」の件

廣野総務担当理事から、原案について以下の説明があった。令和 4 年度支部交付金の配分額は次のとおりとする。ただし、北海道支部、東北支部、関東支部、中部支部、および九州支部については、令和 3 年度の正味財産期末残高が令和 3 年度支部交付金配分額を超過していたため、超過金額を差し引いて振り込むこととする。

北海道支部	¥356,000
東北支部	¥333,700
関東支部	¥526,600
中部支部	¥382,300
近畿支部	¥346,900
中国・四国支部	¥371,900
九州支部	¥383,300
合計	¥2,700,000

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 3 号議案 「学会賞選考委員会委員の交代」の件

廣野総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下の通り可決した。

[辞任] 東海 正 [選出] 佐藤秀一

第 4 号議案 「水産技術誌監修委員会幹事の交代」の件

廣野総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下の通り可決した。

[辞任] 桑原久実 [選出] 下田 徹

第 5 号議案 「e-水産学シリーズ出版契約」の件

山下出版担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致

により原案を可決した。

第 6 号議案 「令和 4 年度秋季大会における発表を行わない学部学生の大会参加費無料化の試み」の件

潮水産学若手の会担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致により可決した。

本件について以下の質疑があった。

潮理事「本件について、今後も大会ごとに理事会に諮るようになるかどうか。」

東海会長「大会規程または大会運営規程を一部改正し、理事会の決議を経ずとも本案件（発表を行わない学部学生の大会参加費無料化）を実施できるようにしたいと思うがどうか。」

規程の一部改正に関して出席理事からの異議はなく、次回理事会以降に規程の一部改正案を審議することとなった。

第 7 号議案 「水産学若手の会主催令和 4 年度春季大会ミニシンポジウム」の件

潮水産学若手の会担当理事から、ミニシンポジウム開催について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致により可決した。

本件について、東海会長からの以下の説明があった。

東海会長「水産学若手の会のシンポジウム企画案について、毎回理事会で審議する必要があるかどうか。」

廣野理事「水産学若手の会の運営規程にシンポジウム企画等を追記する改正を行うことで理事会の決議を経ずとも企画が可能になるのではないか。」

東海理事「今後運営規程を改正するかどうかの議論をすすめてほしい。」

第 8 号議案 「水産学若手の会公式 Twitter アカウント運用ガイドライン」の件

潮水産学若手の会担当理事から、原案についての説明があった。本件について、第 9 号議案とともに審議を行った。質疑の内容は第 9 号議案に示す。

第 9 号議案 「水産学若手の会公式 Twitter アカウント運用ポリシー」の件

潮水産学若手の会担当理事から、原案についての説明があった。

本件ならびに第 8 号議案について以下の質疑があった。

東海会長「Twitter での情報発信と企画広報委員会との関係はどうするのか。」

潮理事「毎回のツイートごとに内容を企画広報委員会と調整すると、Twitter を利用する利点が薄れてしまう可能性がある。」

八木理事「水産学若手の会（および情報発信 WG）のメンバーの選定の基準が定められていないため、特定の意図を持ったメンバーによって、偏った意見の発信がされてしまう危険性も考えられる。」

東海会長「Twitter による若年層への情報発信の利点を活かしつつ、情報の正確性や安全性を担保する必要がある。情報発信 WG の選定基準についての追記等の案の修正を検討してほしい。」

本件ならびに第 8 号議案については、水産学若手の会公式 Twitter アカウントを運用する方向でガイドライン案およびポリシー案の修正を進め、次回以降の理事会で再度審議することとなった。

第 10 号議案 「令和 6 年度春季及び秋季大会の担当支部」の件

廣野総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、令和 6 年度春季大会を関東支部（東京海洋大学）が、令和 6 年度秋季大会を近畿支部が担当することを出席理事全員一致で可決した。

第 11 号議案 「入会承認」の件

廣野総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

本件に関して、東海会長から入退会及び異動申請のオンライン化について説明があり、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。なお、オンライン申請の様式はこれまでの様式を踏襲しつつ会長及び総務担当理事に一任する。

（報告事項）

① 令和 4 年度第 3 回理事会以降の職務執行状況

・会長

東海会長から以下の報告があった。

- 1) 一般社団法人日本技術者教育認定機構（JABEE）の社員総会が令和 4 年 6 月 9 日にオンラインで開催された。総会では、認定プログラムが減少していることが紹介され、その背景に国立高等専門学校認定プログラムが減ったことが挙げられる。国立高等専門学校は国際教育標準を別途採用しており、この国際教育標準を JABEE で認定できるようにする定款の改正が承認された。また、渡部終五元日本水産学会長が 2021 年度 JABEE フェローになった。
- 2) 水産・海洋科学研究連絡協議会が令和 4 年 6 月 15 日に開催された。議長は古谷研氏が、また副議長は漁業経済学会、水産増殖学会および国際漁業学会から選出することとなった。各学会の情報交換があり、漁業経済学会と北日本漁業学会が統合を準備中、海洋政策学会から環境省へ生物多様性の国際戦略に関する意見書を提出、魚類学会から干潟の生物多様性に関する要望書を竹原市に提出が紹介された。なお、日本学術会議の令和 4 年度のシンポジウムは、カーボンニュートラルとブルーカーボンを中心としたテーマで開催予定であるとの報告があった。

・庶務関係

廣野総務担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 会長指名理事候補者について、以下の 3 名を選出して手続きを進める。

古川史也 北里大学海洋生命科学部 講師

マーシー・ニコル・ワイルダー 国際農林水産業研究センター プロジェクトリーダー

蒲原 聡 愛知県水産試験場 場長

本件について、東海会長からの以下の説明があった。

東海会長「若手、女性、水産業界から 3 名を選出した。古川氏は若手の会の前会長、ワイルダー氏は令和 2 年度日本水産学会賞を受賞した女性研究者、

蒲原氏は愛知県水産試験場の場長を務められており研究への造詣も深い。支部幹事の過半数の同意が得られれば正式に候補者となり、次回総会で理事への就任を諮ることとなる。支部幹事の承認が得られれば、9月の理事会から理事候補者としてオブザーバー参加することとしたい。」

- 2) 学会賞選考委員会委員選出選挙について、各支部幹事へ7月中に選挙依頼を発送し、8月に開票予定である。
- 3) 令和4年度各種委員会委員長及び副委員長を決定した。
- 4) 学会事務職員の期末手当を支給した。
- 5) 内閣府へ事業報告及び決算報告を完了した。
- 6) 学会事務局の夏季休業は令和4年8月15日と16日である。
- 7) 以下の協賛について、共催、協賛、後援の取り扱いの申し合わせ3)を適用した。

① 2022 生態工学年次大会

主 催 生態工学会
協 賛 照明学会 他 14 団体
日 程 令和 4 年 6 月 24 日・25 日
場 所 東京農工大学府中キャンパス（東京都府中市）
希 望 協賛
負担金 なし

② 2022 年度日本冷凍空調学会年次大会

主 催 日本冷凍空調学会
協 賛 エネルギー・資源学会 他 34 団体
日 程 令和 4 年 9 月 7 日～9 日
場 所 岡山大学（岡山県岡山市）
希 望 協賛
負担金 なし

・企画広報関係

潮担当理事から、令和4年7月6日に第3回企画広報委員会をオンラインで開催する予定であるとの報告があった。

・財務関係

佐野担当理事から、以下の報告があった。

- 1) シュプリンガーから Fisheries Science 87 巻のロイヤリティが振り込まれた。
- 2) 令和4年5月14日に金子豊二前会長より寄附金 100,000 円を受け取った。

・編集関係

落合担当理事から、Fisheries Science のインパクトファクターについての報告があった。本件について、東海会長から科学研究費助成事業によってオープンアクセスのレビュー論文を掲載したことがインパクトファクター向上につながったとの補足説明があった。また、東海会長から、日本水産学会誌について、インパクトファクターが 0.283 に上昇したとの報告があった。

・学会賞関係

大嶋担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 日本農学進歩賞受賞候補者の推薦について現在選考中である。
- 2) 令和4年度日本水産学会各賞の受賞候補者の推薦を募集中（締切：7月31日消印有効）である。
- 3) 日本農学賞受賞候補者の推薦希望を募集中（締切：7月31日消印有効）である。
- 4) 次回の委員会を令和4年9月10日（土）にオンラインで開催予定である。

・シンポジウム関係

河村担当理事から、令和4年6月16日に開催した第2回シンポジウム企画委員会の内容についての報告があった。

・出版関係

山下担当理事から、以下の報告があった。

- 1) e-水産学シリーズの第3、4、5巻について、査読など進行中である。
- 2) e-本産学シリーズの新企画へは毎年6月末と12月末が企画提出期限となっている。現在、1件の新規企画書の提出があり、出版委員会で審議する。
- 3) 第1回出版委員会を令和4年7月5日（土）にオンラインで開催予定である。

・水産技術誌監修関係

有瀧担当理事から、水産技術誌の投稿原稿の進行状況と水産技術誌監修委員会のメンバー決定についての報告があった。

・国際交流関係

佐野担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 令和4年6月17日に国際交流委員会を開催した。
- 2) 海外学会への派遣については、イギリス諸島水産学会大会へは派遣を見送り、アメリカ水産学会及び世界水産学会の総会に佐藤秀一会員が出席する。アジア水産学会の評議員に廣野理事が就任した。アジア水産学会の大会は3年後にインドで開催予定である。

・水産教育関係

中田担当理事 特になし。

・水産政策関係

八木担当理事 特になし。

・漁業・資源管理関係

小島担当理事 特になし。

・水産利用関係

落合担当理事 特になし。

・水産増殖関係

佐野担当理事から、から、以下の報告があった。

- 1) 委員長、副委員長、および幹事を決定した。
- 2) 令和4年度第1回水産増殖懇話会講演会「九州発：大学の増養殖研究とアウトリーチ活動」を開催する。

- ・水圏環境関係

大嶋担当理事から、9月に水産環境保全委員会を開催し、副委員長を選出する予定であるとの報告があった。また、シンポジウム「船底や漁網に使用する防汚剤汚染は終わったのか？」をシンポジウム企画委員会と共催で開催予定であるとの報告があった。

- ・男女共同参画関係

中田担当理事から、例年秋季大会時に実施しているランチョンセミナーについて、春季大会時に変更して実施し、その際に委員会をオンラインで実施する予定であることの報告があった。

- ・水産学若手の会関係

潮担当理事から、第2回委員会を令和4年5月13日開催し、シンポジウム記録の入稿状況、発表を行わない学部学生の大会参加費無料化、Twitterによる情報発信、ミニシンポの企画等の活動について審議したとの報告があった。

- ・社会連携関係

澤田担当理事 特になし。

- ・将来計画関係

山下担当理事から、最近5年間の本学会の活動の総括とそれを踏まえた新規計画の提案を検討中であるとの報告があった。

- ・北海道支部、地域連携関係

東海会長から、第1回支部幹事会をオンラインで令和4年6月15日に開催し、支部大会、支部総会、および支部幹事会を令和4年11月26日・27日にオンライン形式で開催予定であるとの報告があった。

- ・東北支部、地域連携関係

栗田担当理事から、6月に第1回の支部幹事会をメール開催し、10月に支部大会（青森県）、2月に支部総会（特別講演）を開催予定であるとの報告があった。

- ・関東支部、地域連携関係

八木担当理事から、令和4年6月7日に引継ぎのための会議を開催したこと、東京大学大気海洋研究所の木村伸吾会員を委員長として来年の春季大会（令和5年3月28日～31日開催予定）の準備を進めているとの報告があった。

- ・中部支部、地域連携関係

奥村担当理事から、12月に支部大会を実施予定であり、支部幹事会で開催方式を議論する予定であるとの報告があった。

- ・近畿支部、地域連携関係

澤田担当理事から、令和4年6月20-25日に第1回支部幹事会をメール開催し、9月上旬に例会を開催予定（近大農学部、開催方式は対面または対面+オンライン）であり、12月に第2回例会（講演会と研究発表会）を開催予定であるとの報告があった。

・中国・四国支部、地域連携関係

有瀧担当理事から、令和4年11月26-27日を開催候補日程として支部大会をオンラインで開催予定であるとの報告があった。

・九州支部、地域連携関係

吉田担当理事から、支部大会を1月に開催予定であるとの報告があった。また、秋季大会についてはホームページを開設してオンライン申し込みを開始したとの報告があった。

・英文書籍監修委員会（特別委員会）

山下担当理事 特になし。

・財務検討委員会（特別委員会）

佐野担当理事から、各支部への予算振込方法の検討を進めていること、また、日本水産学会誌の著者負担金を回収できない場合があり回収方法を検討中であることの報告があった。

② その他確認事項

(1) 令和4年度決算処理日程について

廣野総務担当理事から、令和4年度事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の提出日程についての説明があった。

(2) 次回の理事会について

廣野総務担当理事から、次回の理事会は令和4年9月17日（土）13時からWeb会議システムにて開催するとの説明があった。

以上をもってWeb会議システムを用いた会議は、終始異状なく議案の審議等を終了したので、15時24分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長（代表理事）及び監事は記名押印する。

令和4年7月2日

公益社団法人 日本水産学会
議長 会長（代表理事）

監 事

監 事

監 事